

## 年頭あいさつ



公益財団法人  
大分県芸術文化スポーツ振興財団  
理事長 佐藤 禎一

新年あけましておめでとござい  
ます。

公益財団法人大分県芸術文化  
スポーツ振興財団の事業や催し物につ  
きましては、日頃から格別のお引き立  
てを賜り厚くお礼申し上げます。年頭  
に当たり、当財団を代表して一言ごあ  
いさつを申し上げます。

さて、私も公益財団法人大分県  
芸術文化スポーツ振興財団は、平成  
8年2月に財団法人大分県文化振  
興財団として発足し、平成10年9月  
から大分県立総合文化センター  
(ichiko総合文化センター)の管  
理運営を行ってまいりました。その  
後、平成17年4月には財団法人大分  
県パーク21および財団法人大分国際  
交流センターと合併。さらに平成25年  
4月からは公益財団法人に移行し、  
平成27年4月にオープンした大分県立  
美術館(OPAM)も一括管理しなが  
ら、大分県の芸術文化の拠点として、  
「出会いと融合、そしてネットワーク」  
をキーワードに、美術や音楽、演劇、舞  
踏など幅広いジャンルの事業に取り  
組んでおります。

今年も、大分県立総合文化センター  
が開館して20年目を迎えるとともに、  
秋には「第33回国民文化祭・おおい  
た2018」「第18回全国障害者芸術・文  
化祭おおいた大会」の主要なイベント  
が開催されます。振り返れば20年前、  
開館間もない大分県立総合文化セン  
ターで開催されたのが、「第13回国民文  
化祭」の開幕行事でした。財団ではこ  
の記念の年を迎えるに当たり、今年  
10月から11月にかけて開催される国  
民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の

期間中に、美術館では東京国立博物館  
や京都国立近代美術館の国宝等を含  
む名品展、JAXA(宇宙航空研究開  
発機構)とJAMSTEC(海洋研究  
開発機構)の研究成果を紹介する資料  
展、ホールではオペラ「アイーダ」や  
ミュージカル「マイ・フェア・レディ」、  
さらに国際交流プラザでの世界のお  
茶文化の紹介など、多彩な事業を予定  
しております。

伝統文化が織りなす名品を鑑賞し、  
感動的な音楽に身を震わせ、未来に夢  
をつなぐ科学に胸躍らせる。これらの  
催しには、来し方を振り返り、いまを  
五感で体感しつつ、これから展望す  
るという、いわゆる「過去・現在・未来  
にわたる文化の継承」という大きな  
テーマが設定できるように思います。  
芸術文化は、風土や環境の中で営々と  
生命をつなぐ人々の懸命の創意に  
よって育まれ、その悠久の積み重ねの  
上にとどきどきの花を咲かせてゆくも  
のです。そして、その創造への弛まぬ  
意志が、また明日の道をきり拓いてゆ  
くのではないのでしょうか。

私も公益財団法人大分県芸術文  
化スポーツ振興財団は、今年、国民文  
化祭、全国障害者芸術・文化祭期間中  
に開催するこれらの事業をひとつの  
大きな節目として、今後とも様々な分野  
との連携を図りつつ、ふるさと大分に  
活力をお届けできるよう、芸術文化  
ゾーンとしての役割を着実に果たし  
てゆく所存ですので、一層のご支援を  
お願い申し上げます。  
最後になりましたが、今年が皆さま  
にとって幸多き年となりますよう、心  
からお祈りいたします。

「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」期間中に開催する主な事業は下記の通りです。

## 大分県立美術館

日本モダンの精華—京都国立近代美術館コレクション 9/28(金)~10/21(日)

京都国立近代美術館の所蔵品の中から、日本画の村上華岳や徳岡神泉、洋画の梅原龍三郎、陶芸の河井寛次郎ら、京都ゆかりの作家たちの秀作を一堂に展示。中でも福田平八郎の出品作は、臼杵市出身の実業家・故首藤定氏旧蔵のいわゆる「首藤コレクション」で占められており、名作「花菖蒲」をはじめ平八郎壮年期の作品が多数里帰り展示となる予定。

国宝、日本の美をめぐる—東京国立博物館名品展 11/2(金)~25(日)

古代の土器、銅鑄、埴輪にはじまり、平安時代の地獄草紙、室町時代の初期水墨画の名品、江戸後期の伊藤若冲、谷文晁、浮世絵の東洲斎写楽、葛飾北斎らの代表作など、縄文の昔から近世にかけてのわが国の美術の歩みを、東京国立博物館所蔵の国宝や重要文化財を多数含む珠玉の名品で振り返る展覧会。

「海と宙の未来」展 10/2(火)~11/25(日)

JAXA(宇宙航空研究開発機構)、JAMSTEC(海洋研究開発機構)の全面的な協力を得て、県内では接する機会がほとんどない地球科学系の資料や映像、さらにはロケットや深海探査艇の大型模型などを展示。両機構が実施してきた海洋および宇宙探査の輝かしい成果を紹介するとともに、宇宙開発や深海探査、アストロバイオロジー(=宇宙生物学)の今後を展望する。期間中には、有人潜水調査船「しんかい6500」の母船であり、「しんかい6500」とともに世界の海洋で深海調査を行う支援母船「よすか」が大分県に一時寄港し、一般公開される予定。

## ichiko総合文化センター

G.ヴェルディ作曲 オペラ「アイーダ」10/28(日)

古代エジプトを舞台に、エチオピアの王女アイーダとエジプトの将軍ラダメスの悲恋を描いた、世界で最も人気の高いオペラのひとつ。指揮は世界的名声を誇るイタリアの若き指揮者アンドレア・パッティストーニ。主役のアイーダを演じるのは、大分県立芸術短期大学出身で国際的に活躍するソプラノ歌手、木下美穂子。第2幕で演奏される「凱旋行進曲」はサッカー日本代表の応援歌としても広く知られる。

ミュージカル「マイ・フェア・レディ」10/31(水)、11/1(木)

昨年、宝塚歌劇団宙組をトップスターとして退団した朝夏まなとと若手ミュージカル女優として絶大な人気を誇る神田沙也加がダブルキャストで主役を務める二夜連続の生演奏公演。第二夜は本公演の大千秋楽となる。公演に先立って、関連ミュージカルワークショップなども行う予定。

「オーケストラと合唱の祭典」11/4(日)

ichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラとアルカス佐世保ジュニアオーケストラによる共演と共に、全国公募のメンバーが集結し、マラー作曲「復活」を演奏。

## おおいた国際交流プラザ

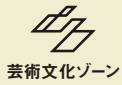
「おおいた大茶会」をスローガンとする国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の連携事業として、世界のお茶文化を紹介する国際理解講座を開催予定。

10月

11月

国民文化祭・おおいた2018 全国障害者芸術・文化祭おおいた大会  
**開会式・オープニング 10/6(土)**

国民文化祭・おおいた2018 全国障害者芸術・文化祭おおいた大会  
**フィナーレ・閉会式 11/25(日)**



### 日本モダンの精華

京都国立近代美術館  
コレクション

9/28(金)~10/21(日)

▶大分県立美術館 3階 展示室B



福田平八郎  
《花菖蒲》1934年  
京都国立近代美術館蔵



村上華岳  
《夜桜之図》1913年  
京都国立近代美術館蔵



佐伯祐三  
《裏街の広告》1927年  
京都国立近代美術館蔵

### 国宝、日本の美をめぐる

東京国立博物館名品展

11/2(金)~25(日)

▶大分県立美術館 3階 展示室B



《地獄草紙》平安時代(12世紀) 国宝 東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives



伊藤若冲《松梅群鶏図屏風》江戸時代(18世紀) 東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives



東洲斎写楽  
《市川館蔵の竹村定之進》寛政6年(1794)  
重要文化財 東京国立博物館所蔵  
Image:TNM Image Archives

### 「海と宙の未来」展

10/2(火)~11/25(日)

▶大分県立美術館

1階 アトリウム、  
3階 コレクション展示室



H-IIBロケットによる  
宇宙ステーション補給機「こうとり」打上げ  
©JAXA



有人潜水調査船  
「しんかい6500」  
©JAMSTEC



支援母船  
「よこすか」  
©JAMSTEC

### G.ヴェルディ 作曲 オペラ『アイダ』

10/28(日) ▶iichiko グランシアタ



写真提供:ローマ歌劇場



指揮:A.バティストーニ



©Yoshinobu Fukaya / aura.Y2  
木下美穂子

### ミュージカル「マイ・フェア・レディ」

10/31(水)・11/1(木) ▶iichiko グランシアタ



朝夏まなと

神田沙也加



寺脇康文

別所哲也

### オーケストラと 合唱の祭典

11/4(日)

▶iichiko グランシアタ



### 世界のお茶文化紹介

10月 ▶iichiko Space Be



大分県立美術館  
Oita Prefectural Art Museum



総合文化センター  
iichiko Culture Center

